

住民先生役に学び合い

大豊町 初のサマーセミナー



地区のお茶の歴史などを紹介した授業
(大豊町の旧立川番所書院)

ぎ木で増やしては紅茶を栽培していることを、発酵などの製造工程と合わせて講義した。

生徒として参加した小笠原徳孝さん(69)は立川上名は「立川に歴史的な紅茶の木があることも知らざっ

た。身近なところに先生がおるもんじゃ」と感心していた。

(川嶋幹鷹)

【嶺北】大豊町立川下名の旧立川番所書院で15日、住民や学生らが先生となって学び合いを行う「大豊サマーセミナー」が開かれた。地区内外から約60人が集まり、地域に残るお茶の歴史や製造方法などの講義に熱心に聞き入っていた。

市民や学生らが先生になって授業を行う「おらんくの室戸大学 サマーセミナー」に倣って高知大学や立川地区活性化推進委員会

(吉川定雄会長)などで行く実行委員会が初企画。

初回は、お茶の歴史▽移住者が語る移住の決め手▽県立大の「おおとよ探検隊」によるポツチャ紹介の3こまが用意された。

立川地区でお茶を作る吉川定雄さん(75)は、1896(明治29)年に立川に紅茶や緑茶の伝習所が存在していたことを紹介。その名残で、日本で品種改良された品種の一つ「紅ふうき」が1本だけ残っており、接